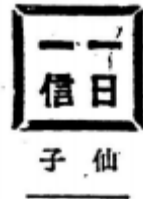
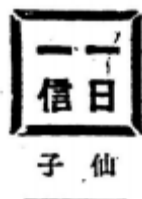


苦痛なく此仕事が遣れる様になつたらお終ひだ等と思つてうちにもう丸一月は過て了つた。して苦痛の感じ方が餘程薄らいで來た。今に丸きり感じなくなるだらう。馴れると云ふ事は恐ろしい。然し馴れたといふ事を感じるうちは未だ眞實に馴れないのかも知れない。社にはもう私より新參の者が二人もある。さびしい。(大正四年十一月十七日)

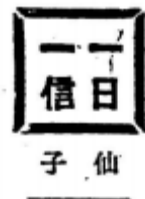


先達で風邪で二三日寝なければならなかつた時、全く久振りに本を手にする機會を得ました。それはドストエフスキーの「貧して(ママ)人々」でした。私は泣けば又後で頭が痛くなると加減するので思ひ切り泣けないのが残念な位篇中の貧しい懐しい人々に心を惹かれました。其時私は思ひました。ものを皮肉に觀たり、ものゝ價値を認める事の出來ぬ不幸な作品と自分になるよりも、かうして泣いてゐる瞬間の此の生活こそ最も尊いものであると。(大正四年十二月四日)



四五日前の朝私達一家の者はみな喧しい家鴨の聲に目を覺しました。それは表の肉屋でお正月の需用に應じる爲めに買込んだものなのでせう。私の家の茶の間と、その家鴨の假りの小屋とは接近してますので、御飯の時には皆で顔を顰めて「喧しいなあ」といひます。家鴨は平氣で一日中ギヤア／＼いつてゐます。あの醜い聲で傍近く鳴かれるのは堪りませんが、其聲がはつたり(ママ)止つた日の事を思ふと變な氣がします。さうして「今のうちに思ふさま鳴いてお置きよ」といひたくなります。

(大正四年十二月二十五日)



御無沙汰勝ちな丁先生の家へ先夜御年始にあがりました。嘗ては此家に起居して客の取次ぎもした自分が、まだ火の出ない冷たい火鉢の前に坐つて珍らしさうに客間を見廻すと、紫檀の机の位置にも、長押に懸け廻してある油繪の額の一枚にも、其頃と少しの變化もない有様に、何處か

らともなくそぞろ昔懐しさの思ひが湧くのでした。と同時に何ともいへぬ寂しさを覚ええました。常によりよき變化を望んで止まない、又常に絶えざる内部の變化に迎へられつゝある私達にとつて、静止の状態は實に一つの辛苦であります。（大正五年一月十二日）



私の父は、私の母の前に二人の妻を持ちました。二人は姉妹で、初めは姉の方が父の妻でしたが、お産で亡くなつた爲めに、親類のすゝめで再び其妹を迎へる事になりました。不幸にも妹も亦次いで没しました。其後に來たのが私等四人の兄妹の母です。其事を私は可なり大きくなつてから知つて、若し四人の兄妹のうち誰かゞ先妻の子であつたならなごゝ、繼母繼兄妹の悲しい昔物語を思ひ出して、不思議なやうな、侘びしいやうな氣持ちで考へ込んだのを覚えてゐます。其父も其母も今はもう亡き人です。其時ふと私の胸に泛んだのは、あの世で三人の妻の誰が父の傍に坐るだらうといふ事でした。其後或時聖書を読んで見ると、キリストが丁度之れと同じやうな問を

受けて、あの世にはもう夫もなく妻もなく、皆兄弟のやうになるのだといふ意味の答をしてゐるのを知りました。私もかう信じてゐます。父は必と若い時に別れた其二人の妻と會つたでせう。そして三人が手に手を取つて、一足後れた母を喜んで迎へて呉れたでせうと。さうして其境地を思ふ時に、何ともいへぬ懐しさに涙がこぼれます。（大正五年三月一日）



此間ある新聞を見て居たら、「躑躅を喰べる人」といふ見出しで、福島縣會津地方の子供達が躑躅の花を喰べるといふ事を珍らしさうに書いてありました。私も子供の時分には躑躅の花をよく摘んで喰べたもので、今、さう／＼さうだづけと思ひ出しながら、どういふ色の花が喰べらるので、どんな色のが喰べられないのだつたかはもう忘れて居る。唯だ甘酢いやうな味が、かすかに思出の味覺に上つて來るやうな氣がします。考へて見ると、躑躅に限らず子供の時分には、隨分山の草や木の實などを喰べたものだと思ふ。そして其の時分の腸の方が健全であり、且つ綺麗であつたやうな氣がしてなりません。

(病床にて) (大正五年五月十八日)



△△様に××様。年末になつて何となくお氣忙しくおいでの事と存じます。私はまあ仕方なくのんきにして居ります。今年は病院でお正月を迎へます。大分この節はぐあひがようございますから御安心下さい。在の方に行つた義兄が、山鳥と雉とを獵師の手から買つて來ました。一羽づゝお宅の方にお送りしてみます。どちらへ雉が行つてどちらへ山鳥がお届けされるか、私には分りませんが、山の味をお試み下さい(岩代須賀川町にて)(大正五年十二月十九日)

【入力者注】底本は総ルビですが、一部のみ残しました。

資料をご提供くださいました菅野俊之様に厚く御礼申し上げます。

底本：讀賣新聞 大正四(1915)年

大正五(1916)年

テキスト入力：小林 徹

公開：令和三年三月二十七日

最終改訂：令和五年十一月九日

リンク：[水野仙子ホームページ](#)